

井戸端だより

第 60 号

発行日： 2007.12.22

発行： 暮らしの学習会

今年も暖冬でしょうか。我が家ではまだストーブを焚く必要を感じません。世間の寒いニュースに心は冷えているんですが。何はともあれ、井戸端だよりも記念すべき 60 号を迎えました。会ができて満 15 歳になりました。今回は普通の装丁でお送りします。来るべき 70 号を目指して何か有意義な活動ができればと考えています。今後ともよろしくお願ひします。



目 次

- ・ 10 月例会報告 P.2~
- ・ 11 月例会報告出前講座「ごみ行政について」・ P.3~4
- ・ 愛媛新聞記事『バイオマス活用』 P.5
- ・ 愛媛新聞記事『市議会』他 P.6
- ・ 12 月例会報告 伊丹十三記念館 P.7~8
- ・ ジャコウアゲハ絵はがき 会計報告 . . . P.9
- ・ 子ども達に伝えたい事 P.10~11
- ・ 新潟県中越沖地震に係わる医療支援に行ってきました P.12~13
- ・ フィリッピン・セブ島へ 同級生の旅 . . . P.14~19
- ・ 老人医療費 P.20~21
- ・ 雑感 P.21~24
- ・ お知らせ・編集後記 P.24

10月例会報告



10月3日(水)午前10時から林さん宅

参加者7名

- ① 井戸端だより59号が配られ、内容について話し合う
- ② ごみ問題について、今治、松山などの分別と東温市の違いがはっきり分らない。
- ③ 市役所にごみ問題について教えを申し込む事にする。
→*11月例会として東温市出前講座申し込み
- ④ 全員で、がんセンター前のレストラン「スローテンポ」で、昼食。My 箸や食材について話し合う。(Sa・K)

*****とうおん出前講座*****

③の出前講座について・・・早速市の生活環境課に連絡を取り、11月28日2時から、お話しをうかがうことで快諾を得、中央公民館に正式な申請書を提出しました。その結果くらしの学習会宛に、10月19日付市長名で「とうおん出前講座受講承認決定通知書」が送られてきました。事前に私たちがお話ししたいとお願いしたのは、ごみの正確な分別法、ごみ収集後の行方、廃棄物検討委員会の内容などについてのお話しです。(T・H)

9月7日愛媛新聞記事より

9月6日市廃棄物検討委員会初会合

脇本忠明愛媛大学名誉教授を委員長に選任

東温市リサイクルセンター(旧川内町清掃センター)解体後の議論

- ・資源ごみのストックヤード
- ・バイオディーゼル燃料などの新エネルギー関連施設など の案示す

11月23日愛媛新聞記事より

11月22日市廃棄物検討委員会

東温市リサイクルセンター焼却場の跡地利用は、資源ごみストックヤードとする答申案まとめる

ごみ袋完全有料化については市民の理解を得る方策が必要

→年度内の答申は見送る方向

11月例会報告 出前講座 「ごみ行政について」

11月28日(水)「ごみ行政について」中央公民館婦人室に於いて、出前講座として東温市生活環境課の伊賀課長・青木さんに来ていただき説明を受けました・参加者は6名と少なかったのですが、約2時間、活発な意見交換の場となりました。

始めに「家庭ごみの分別と正しい出し方」について説明を受けました。参加者全員旧重信エリア住民だった為、どうしても日々感じている疑問についての内容になってしまいますが、分別毎に最後にまとめて記させていただきます。

11月23日愛媛新聞の記事について『今後どうなって行くのか』の質問をしました。①市廃棄物検討委員会は年4回開催予定。②旧川内町焼却施設跡地利用については、資源ごみ用ストックヤードとする答申案をまとめた。

(旧川内では資源ごみの収集方法が多少旧重信と違って回収業者が収集する前段階で仮置きする場所が必要との事)③ごみ袋の有料化については、実施時期・袋の金額等具体的な内容は未定。今後、区長会など各種団体に説明をし経緯を検討委員会に報告をし、市民の理解を得る為アンケート等で意見を聞く必要もあり、数年先のことになりそうです。

ただ、山ノ内焼却場も平成9年建設早10年が経ち(耐用年数15~20年)現在平均20t(最大22t)焼却しているが、新焼却場の建設にも多額の費用が必要となるので延命しながら使っていきたい意向。資源ごみは増加の傾向にあり、プラ回収回数を増やしてほしいとの要望もあるが、収集委託料が増加していて難しいようです。ごみ収集費用住民一人当たり年間1万円弱(総額3億1700万円)かかっているそうです。いずれ完全ごみ袋有料は避けられないでしょう。

東温市環のまちづくり推進事業について、家庭用てんぷら油をバイオマスエネルギーに！バイオディーゼル燃料は給食センターボイラーやリサイクルセンターのごみ収集車で使用。ペレットストーブは、給食センター・ふるさと交流館・今年度南吉井保育所に設置しているそうです。

生ごみのリサイクルは、冷蔵された新鮮な廃棄物(刑務所・給食センター

フジから出た物) を利用。

区によっては資源ごみの当番をしているが、自主的なもので市として指導をしているわけではない。

参加者の一人はここ6年間で3回引っ越し、その都度ごみ分別方法が変わって困った。日本全国どこへ行っても同じ分別ならば問題ないのに。せめて愛媛県全域同じにならないのかとの意見が出ました。自治体の考え方や焼却施設の種類など問題は色々でしょうが私も同感です。究極のリサイクルの町徳島県上勝町の様にとっても細かい分別をし廃棄物を全て町外へ出す方法もありとは思いますが、小さい自治体だから出来る事だと思うし、分別ができなくなった場合(高齢化・病気など)どうなるのでしょうか?皆さんはどう思われますか。その他の質問については分類別まとめの中に入れていきます。

～分別ごとのまとめ～

<燃やすごみ>シュレッダーごみは少量ずつ出す。

<紙類>新聞・広告紙の中に雑紙・カタログなどを入れない。新聞・広告紙紙パックは、入札により収益が得られる。朝一番に新聞類のみを、後便で段ボール・雑誌類を回収している。

<空き缶・金属類>金属のキャップ・蓋は、全体の1/2以上の素材で分別食用油缶の油汚れはそのままが良い。

<ペットボトル>入札により引取り先が変わる。洋服素材にリサイクル

<プラスチック>容器包装類に限るのでプラのスプーン・フォークはその他に入れる。リサイクルセンターで入札、ペレット状に加工をしプラスチック原料になるので、分別が悪かったり、汚れていたら原料の質が粗悪になるのでキチンとした分別が重要。二重袋にせずそのまま透明袋へ入れる。トレーはスーパーへ出す。

<蛍光灯・鏡>蛍光灯のガラス部分は蛍光灯にリサイクルされている。

<その他の燃やさないごみ>製品・道具類。使い捨てライターは上の部分を外すか穴を開ける。土などでとても汚れた発砲スチロールもその他へ。

<粗大ごみ>家電リサイクル法対象品(テレビ・冷蔵庫・洗濯機・エアコン)は販売店へ。

抜けている事も多々あるとは思いますが報告を終わります。

A. M



2007年未記者ノイト

□ 8 □

原油価格の高騰や地球温暖化への危機感を背景に、世界的にバイオマス(生物資源)エネルギーが注目される中、東温市は二月、市バイオマスビ

バイオマス活用

東温市

市はことし、策定した「バイオマス活用推進計画」に沿って、木質ペレットやバイオディーゼル燃料(BDF)の導入を始めた。七月には家庭へのペレットを燃料とするストーブ設置に最大五万円を補助する制度を設け、市リサイクルセンター(則ち「エコセンター」)の二割がバイオマスエネルギー利用で賄うことができる。東温市は、市内の化石燃料消費量を二〇一五年まで一〇五年度比で20%削減する目標を掲げており、「エコセンター」を通じてバイオマスエネルギーの環境教育を一層推進する。池川市長は「バイオマスをうまく使えば農林業振興にもつながることを理解してもらい、市民団体と連携した小中学生への環境教育を一層推進する」と語る。環境問題に関心がある企業が公的助成制度を受けやすい施策なども進める考えだ。

行政主導で対策進む

環境意識の高まり期待

ジョンを策定。行政主導でさまざまな同エネルギー活用策や省エネ対策が進行した。ワラやヒマワリなどのバイオマスは、成長過程で二酸化炭素を吸収するため、エネルギーとして消費しても二酸化炭素排出はゼロと換算される。市生活環境課新エネ推進室の池川英信室長は「地球温暖化を抑制する方策としてバイオマスエネルギーは有効とされている。廃食油や間伐材など身近なものを利用するため、市民の環境意識の高揚も期待できる」と導入の意義を説明する。



一般家庭の植物性廃食油を回収するボックス＝東温市中央公民館

人口約三万五千人の地方の自治体で始まった試みは、飛躍的に省エネ効果を生み出すものではないが、市民が環境意識を高め、地道な取り組みを積み重ねていることそのものが大きな効果と言える。今後は便利な生活に慣れた現代人のライフスタイルをどう見直すかも重要となるだろう。(社会部・本橋隆太)

廃ペットボトル
業者に直接売却
川内地区08年度から

東温市例(11日・定)

(無所属)大西佳子(同)
佐藤寿兼(共産)丸山稔
(公明)佐伯強(共産)
藤田恒心(無所属)永井
雅敏(同)伊藤隆志(同)
野中明(同)竹村俊一(同)
近藤千枝美(公明)渡部
伸二(無所属)大西勉(同)
の十三氏が一般質問。意
見書一件が議員提案され
た。

確保などが狙い。〇八年
度の収集予定量は三十二
ト、〇六年度の同協会か
らの拠出金(重信地区を
含む)四十六万円より若
千多い収入を見込んでお
り、売却先は県内業者と
調整中としている。
全国的に「抜き取り」
が問題となっている紙ご
み収集について山内部長
は「新聞紙で多発」とし、
先に新聞紙だけ集めるな
どの対策を取っているが
抜本的解決には至ってい
ないと説明した。
香川県丸亀市の学校給
食牛肉偽装事件などに絡
み理事者は、同事件を機
に牛肉の納入業者に層
(ト)畜証明書の提出を
義務付けるようにしてい
るとし、新たに同証明書
に業者の確認印を義務付
ける考えを示した。

東温市議会

定数6減へ

3月に条例改正案提出
東温市議会は十七日、
全員協議会を開き、議員
定数(二四、欠員一)を
六減の一八とすることを
賛成多数で決めた。三月
議会上に条例改正案を議員
提案する。可決されれば、
次回市議選から適用。現
市議の任期は二〇〇八年
十一月六日まで。
厳しい財政状況を背景
に経費削減に努めようと
〇六年三月、市議会議員
定数等調査特別委員会
(玉乃井進委員長、八人)
を設置。五回の協議を終
え、全員協議会で決める
ことにしていた。

全員協議会是非公開で
実施。佐伯正夫議長らに
よると、議員から一六、
一八、二〇、二二、二四
の五案が提案され、多数
決で十三人が賛成した一
八に決まった。

市営住宅から
組員排除可決

条例を一部改正

東温市例(18日・定
例最終)一
般会計補正予算九億千
九百十七万円(累計百二
十八億二千九百円、前年
同期比一・七%減)など
十五議案を原案可決し
た。

市営住宅からの暴力団
員の排除を目的とする市
営住宅管理条例の一部改
正について、山内孝二産
業建設委員長が委員会
の原案可決を報告。討論
があった。

渡部伸二氏(無所属)

が反対討論で「暴力団と
いうだけで排除・差別さ
れるのは、個人の尊厳や
生存権を定めた憲法の精
神に反するのではない
か」などと条例での規制
を批判。一方、賛成の立
場を竹村俊一氏(同)が
「一般居住者の安全と平
穏を保障するための規制
は正当」佐藤寿兼氏(共
産)は「改正はヤミ金融
などを資金源とする暴力
団を根絶するきっかけと
なる」と述べた。賛成二
一、反対一で原案可決さ

れた。
また強固な行財政基盤
の構築を目指し、「市企
業誘致・地域活性化等調
査特別委員会」(桂浦善
吾委員長、十人)を設置
することを決めた。企業
誘致、雇用確保、行財政
改革などについて調査研
究し、理事者に積極提案
していくとしている。

「生活保護基準の安易
な引き下げに反対し、慎
重な検討を求める意見
書」を否決した。

ジャコウアゲハ冬眠中??

夏の間楽しませてもらったジャコウアゲハ、今、さなぎのまま木枯らしに耐えている。我家の庭で幼虫からさなぎになり成虫へ、そして卵を産み、幼虫からさなぎに、この過程を夏の終わりに楽しむことができた。

ブロック塀に、梅の木に、ノウゼンカズラに、部屋の中のゴムの木に搔きついている5個のさなぎ、暖かくなるまでこのまま耐えてくれるのだろうか。今、梅の木は殆ど葉っぱが落ち、小さい蕾がつきはじめている。ウマノズクサの葉も枯れた葉っぱが絡み合っている。春が待ち遠しい。

(s i · k)

12月例会

12月17日（月）午前11時に伊予鉄立花駅集合参加4名+現地集合1名

伊丹十三記念館



12月の例会は伊丹十三記念館に行った。

敷地に入るとベントレーコンチネンタルの出迎えがあり、大きくて内装が革張りのオープンカーに圧倒された。伊丹映画監督とはこういう車に乗っていたんだなあ、いわゆる芸能人を知らない私は、知らない世界を覗き見できるような気分させられた。

私の伊丹十三は俳優の印象が強い。外国映画にも出演するほどの俳優だった彼が他のことでも才能に溢れた人とは知らなかった。

映画監督になってから64歳で亡くなるまでの間に、10本の映画を作っていたが、どれも印象が強く、はっきりとした映像が今も心にある。最初の作品の〈お葬式〉は伊丹が50歳までに経験したすべてのことを活用していた。彼が元気ならば74歳。老齢の映画監督としての作品が見たかった。

彼の作品は日常の事柄をうまく捉えて、私達に自分を振り返るチャンスを与えてくれたし、世の中の不合理さをわかりやすく教えてくれたし、人として生きていくことの切なさや苦しさや面白さや、数え切れないほどの勇気をもたらしたと思っている。その時々、心のどこかで疑問に思っていることを、解かりやすく紐解くような作品だった。今、彼が生きていたら、作品にできる事実がたくさんある。防衛庁問題も年金問題も。彼が作る映画ではどう解決していくのだろう。日本の今をどう表現するのだろう。答えがでないことに、何がなんだかわからないことを、彼だったらどう表現してくれるのだろう。

伊丹記念館は常設、企画、喫茶、売店、収蔵庫に分かれている。常設に入ると小さい頃の彼の写真や文章があり、非凡さは生まれたときからのようで、天才か秀才かはわからない。が、もしかすると両方かも。13のコーナーで彼の紹介があり、俳優、エッセイスト、料理、コマーシャル製作、ドキュメンタリー製作、商業デザイナー、映画監督の顔を一度にみせてくれる。小さい頃の作品が今もあることに驚いた。母親が残したものだろう。子供への愛情に溢れた人だったに違いない。伊丹十三は母親に愛しみ育てられた人だと思う。

企画コーナーは最初の作品のセットや手書きの絵コンテがあった。中でも私がいいなあと感じたのは彼の別荘で撮影をしたときのテーブル。お坊さん役で出演したく筈

智衆> が触っていたものというコメントがあった。山田洋二監督の<とらさん>でもお坊さん役で有名な俳優の笠は、最後の<とらさん>出演になるであろうと言う頃に、山田監督に（どうか、私の事を忘れないで下さい。）という言葉を変えたと言田監督が何か書いている。（忘れないでいてくれて、ありがとう。）と笠 智衆が言っているような気がした。

次に喫茶タンポポ。私達はお茶をする予定はなかったが、伊丹の絵がかかっているのので、入らせてもらった。タンポポの出演俳優さん達を伊丹が描いたクロッキーがかけてあった。それをそのまま映画のポスターに使っていたらしく、本物そっくりに描けることに、なるほど！と伊丹の多彩さに、また感心させられた。才能なんだなあ。23年前の青年俳優 渡部 謙さんが笑っていた。ラーメン店のおかみさんの若い宮本 信子さんもいた。映画（タンポポ）は伊丹のそれまでの全てを注いだ作品だったんだと思わせる。心を込めるとか、力を尽くすとか、愛情をかけるとか、どういば伝わるのだろうといつも考えて作り出した作品だということがよくわかる。

記念館を出る前に売店で文庫本を買った。エッセイスト伊丹十三とは。多彩な彼の豊富な経験から生まれる言葉を楽しみたいと思う。 M・T

伊丹十三の厚焼き玉子の材料配合

玉子	10ケ		
だし	玉子のカラの半分 15 杯分（カップ 約 2 杯）		
酒	カップ	半杯	
砂糖	大	中山	6 杯
塩	小		1 杯
しょうゆ	大	4 杯	
味の素	少々		
ゴマ油	3 杯		



記念館の中にあつた手書きのものを書き写しました。私は今までゴマ油を使った玉子焼きを作ったことがありません。おいしいのでしょうか？？疑問ですが料理の腕前も一流だったらしい伊丹のレシピです。お試し下さい。（M・T）

年・月・日	収入	支出	現在高
17・07・06		印刷費 98,700 振り込み手数料 120	
17・07・09	学習会より 100,000	クリアケース 1,414	- 234
17・07・15	5部販売 1,750	振り込み手数料 70	1,446
17・07・19	20部販売 7,000	振り込み手数料 70	8,376
17・09・28	15部販売 5,250		13,626
17・10・04	57部販売 19,950	送料 740	32,836
17・10・06		学習会に返済 20,000	12,836
18・03・10	14部(農産生協委託販売) 3,920		16,756
18・04・03		送料 90 生協用ちらし材料 198 " 315	16,666 16,468 16,153
18・04・11	1部販売 350	振り込み手数料 100	16,403
18・04・28	1部販売 350	振り込み手数料 100	16,653
18・05・04	2部販売 700	振り込み手数料 60	17,293
18・05・30	20部販売 7,000	草刈り用鋏 2,580 送料 230 学習会に返済 10,000	21,713 21,483 11,483
19・12・10		学習会に返済 10,000	1,483
19・12・22	(2部販売(2部)) 280 3,360		4,843

印刷枚数 1,015
 会員配布 130
 贈呈・見本 87
 販売 135

503部 12 (5部, 5部, 3部)

～子ども達に伝えたい事～

中国児童教育援助協会の活動をスタートしてから、来年で7年目となります。これまで、本当に多くの協力者に恵まれ、順調に支援は続いています。

普段の（支援活動中の）私は、パソコンの前に座り、メールを打ったり、郵便物を作成したりするのが主な仕事です。当会はメンバーの皆で集まったり、話し合ったりすることはほとんどありません。メンバーさんとはメールでつながっており、パソコンや郵便物を通じて連絡したり、協力してもらったりしています。今年、当会に協力してくださっている方は120名あまりとなり、中国の方も増え、日本各地、中国各地に協力者が増え、『大きな輪になったな～』としみじみ感じながら、年賀状印刷をしているところです。



来年の活動ですが、これまで縁あって学費支援させてもらっている子ども達（現在160名ほど）とじっくり付き合っていきたいと思っています。中国の子ども達には「このチャンスを生かして！」と伝えていきたいと思っています。当会が支援できる金額は本当に小さなものですが、金額以上に多くの人の手、思いが詰まっています。この小さな学費支援をきっかけに、「進学のをあきらめないで欲しい。大人を説得し、周囲を動かし、一日でも長く、学が楽しさ、皆と過ごす楽しさを味わって！」と伝えていくつもりです。

日本の子ども達にも、中国紹介授業等を通じて、自分の思いを伝える機会があります。日本の子ども達には、いつも、下記のようなメッセージを伝えています。

中国文化は深く、複雑です。そして、今も急速に変化しています。私は中国で暮らした事で、日本にも目を向けないと…（日本をきちんと説明できるようにならないと…）と、思うようになりました。

中国の人はディベートが得意ですし、大好きで、普段から議論を戦わせています。話をするとき、日本の“だいたい…”では納得してくれません。“全体が〇〇で、そのうちの何パーセントの〇〇が××だから△△になる。”と説明しないと、納得してくれません。なので、頭の回転が速く、計算が得意で、数字に強いです。歴史もがっちり覚えていて、「あなたはどう思っているの？」と必ず日本人としての見方と、自分自身の意見を求められます。また、「お金持ちになりたい」と目標が明確で、それに向けてがんばる民族です。

日本人が中国人をちらっとみると、「声が大きいし、話し方は喧嘩しているみたいだし、安い物ばかり買ったがり、一緒に商売するとお金に汚いと聞くし…」と感じる部分があるのではないのでしょうか・・・私も、中国に行つてすぐの頃はそう感じていました。でも、半年、一年と彼らの生活を見ていると、彼らの状況が見えてきました。中国の人は、普段は節約家ですが、皆で楽

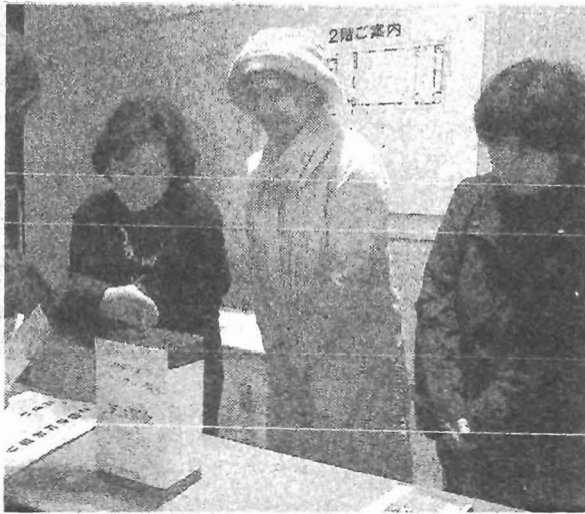
しむ時は、どーんと支出します。もてなしを大切にします。他人には冷たいですが、友人になると自分の用事・仕事を投げ出してでも友人を助ける、情の深い人たちです。辛抱強く、努力家です。

これからの日本、国際化がなければ、国は間違いなく衰退します。これからの若い世代の方々には、中国にかぎらず、多くの国の人と交流し、彼らと議論を交わし、彼らの文化をしっかりと感じた上で、様々な判断、お付き合いをして欲しいと思っています。外国語はやる気になれば、自然と身につきますし、共通の興味・話題 <何か一つ、「オタク」な人になる> があれば、外国の人と親しくなりやすいです。

いろんな方向から物事をとらえられる日本人になって欲しいと思っています。

中国児童教育援助協会 代表 菅 未帆

バン格拉デシュ・サイクロン直撃



サイクロン被災者への救援金を募るヒラさん
(右から2人目)ら東温市国際交流サロンの
メンバー2日、市中央公民館

「被災地に力を」。動きが高まる中、東温市大型サイクロン「シドル」国際交流サロン(橋本多の直撃を受け、三千人以上 賀子代表、三十人)もこの死者が出たバングラのほど救援金集めを始めデシユに国際的な支援のた。同国に家族が住むイ

東温の国際交流サロン

被災地復旧思い一つに

会員の話で窮状知り募金

「被災地に力を」。動きが高まる中、東温市大型サイクロン「シドル」国際交流サロン(橋本多の直撃を受け、三千人以上 賀子代表、三十人)もこの死者が出たバングラのほど救援金集めを始めデシユに国際的な支援のた。同国に家族が住むイ

ンド出身の会員、サムスンネハル・ヒラさん(右)同市志津川川の思いが活動につながり、世界最貧国の一つで困窮にあえぐ被災地の救援を呼び掛けている。

ヒラさんは、兄二人や知人がバングラデシユの首都ダッカ在住。愛媛大医学部教員の夫(金三)も同国出身で、既に十一月中旬の発生直後、同大関係者らから救援金を募り送金した。

兄らに被害はなかったが、電話などで知った被災地の様子は「目を覆うような惨状ばかり」。遺体が散乱し、家屋や道路、収穫直前の米や野菜などの多くが流された。復旧作業は始まっているが、冬を控えて衣服が不足、疫病の不安も募る。ヒラさんは「すくなくても被災

地に向かい、自分の手でご飯を作ってあげたい」と目を抑える。

ヒラさんの話から実情を知ったサロンは同日、市から、市内の学校などで募金を開始。会員は「ひとことではない。少しでも役に立ちたい」と声をそろえ、十二月二日、市中央公民館であった「市人権を語る集い」会場でも募金活動を行った。

「協力してもらいたい本当にありがたい」とヒラさん。今後、松山市内での募金活動も予定しているほか、銀行口座への振り込みも受け付ける。救援金はタッカのライオンズクラブを通じて被災地へ送るよう調整している。

振込先は伊予銀行横河原支店、口座番号1632680、口座名「バングラデシユサイクロン災害支援募金」。問い合わせは橋本代表電話089(9664)2215。

新潟県中越沖地震に係わる医療支援に行ってきました

平成 19 年 7 月 18 日の全国自治体病院協議会からのファックスによる問い合わせに引き続き要請があり、急な決定となりました。あわてて準備を進め、すったもんだの末にチーム編成が決まり、なんだかだで松山から 13 時間余もかけて宿泊地の上越市に着きました。構成は医師 2 名（うち 1 名は運転手兼任）、看護師 2 名、薬剤師 1 名、事務 1 名と運転手 1 名計 7 名で、患者搬送車とミニバン車に分乗しての移動でした。肉体的には疲労困憊でしたが精神的には高揚していました。

支援すべき被災地の柏崎市は上越市から 40km 余りで、通常では高速道路を使って 30 分弱で行けるところです。被害の目立たない上越市から柏崎市に近づくに従って、高速道路も隆起、陥没及びうねりが激しくなって変則片側 1 車線走行と速度制限がおこなわれていました。約 1 時間かけて市内に入ると道路の状態はますます悪くなり、家屋が道路上まで倒壊している状態で一般車両、救援自動車等々で渋滞していました。

対策本部で巡回する担当避難所 3 か所（柏崎小学校、中通コミュニティーセンターと中通小学校）が割り振られました。それぞれ体育館の床の上にボードを敷き詰めて、莫藎を重ねた上で布団を敷いて寝ていました。巡回は午前と午後の二回でした。午前の巡回では会社勤めや自宅の整理等での不在者を除いた子供と高齢者が対象で、午後には避難所に帰ってきた人たちが加わりました。

電気は通っていましたが、水道とガスがまだ回復していませんでした。市からの応急危険度判定結果が張り出されて立ち入り制限されている家がありました。また、家屋が安全でも水道が回復していないので避難所生活を続けざるを得ない人たちもいました。

避難所には他に対策本部からの派遣員、保健師さんとボランティアの人たち及び自衛隊員が活動していました。保健師さんも他の自治体からの支援で来ていました。巡回に行く保健師さんが情報を提供してくれて大いに助かりました。徳島県からの保健師さんは全員にラジオ体操の後、阿波踊り体操を指導して楽しませてくれました。トイレは避難所の外に簡易トイレがほぼ十分な数が備え付けられているように思われました。自衛隊は水や氷の補給や、炊き出し活動、お風呂の準備に加えて、広い体育館にエアコンの設置を行うなど大活躍でした。ちなみに風呂は柏崎小学校では“練馬の湯”で、東京の練馬からの派遣部隊によるものでした。中通コミュニティーセンターでは“熊の湯”で、北海道帯広からの派遣部隊が設営していました。

我々の医療支援は地震発生から 1 週間後の活動です。病気でいえば急性期が過ぎた時点に相当します。すでに圏内の医療機関はすべて診療可能となっていましたし、急性期で入院の必要な患者さんたちは既に各医療機関に入院していたようです。その中での巡回医療活動でしたが、診察はしても処方箋発行は許されず、持参薬内で可能な行為しかできません。救急処置が必要な患者は病院へ受け入れてもらえる状況にはなっていません。腹痛で

5日間も飲食できない子供が急性腹症（虫垂炎？）で入院加療の必要があると説明しても、手段がないと拒絶される母親を看護師や保健師さんたちと説得した翌日になって前日に入院したとの話を聞いて安心しました。

受診内容では持病の相談や血圧測定を希望されることが多いのはもちろんですが、特筆すべきは精神的な問題です。それまでの日常生活と異なり、プライバシーが完全には保たれず、いつ終わるかも不明で変化のない避難所生活。その他、非日常的な諸々のストレスが積み重なり、不満となって蓄積されているところに我々“余所者”が来た。そこで思いの丈を話せるだけ話すとそれだけで一時の安らぎが得られることになります。最初は涙ながらに訴えていた人が次第に変化して穏やかになっていくのを目の当たりにするとほっとします。

そんな中でベッド上に横たわる 93 歳の女性が目につきました。別にご病気ではなく高齢者をいたわるベッドの設置のように思われました。そばに行って何うと笑顔で「長生きするといろんな経験ができる」と話されたのが印象的でした。

われわれの医療支援活動の中で最も好評だったのが東洋医学の W 医師によるお灸でした。最初は半信半疑だった人たちが一患者のロコミで広がり、どんどん希望者が増えて看護師、薬剤師、さらには事務職員の手も借りなければならないほどの忙しさとなっていました。W 医師の巧みな話術と卓越した技術で患者さんは心身ともにリラックスしていました。

午後の巡回は消灯時間の午後 9 時半に終わり、午後 11 時ごろに上越市のホテルに着いてからの夕食となる生活でした。

最終日には柏崎小学校の水道が回復しましたが、中通地区は回復していない状況でした。また仮設住宅の建設も始まっていました。我々は予定を立てての行動でしたが、被災地の人たちはまだ先の見えない不安な生活を送られていることと思います....。

実質 3 日間の医療支援活動を終えて再び 13 時間余りかけて無事松山に帰ってまいりました。急ごしらえのチームでしたがそれぞれの個性を生かしてスムーズな活動ができたと思負しています。

(M.O.)



フィリピン・セブ島へ 同級生の旅



11月7日 (水)

いよいよ、ワクワクドキドキのセブ島への旅の始まり。早朝集合のため、同行の皆さんより一日早く出発する。本州へ繋ぐ3本の橋を眺めながら先ずは関空まで。ホテル日航へ。明日からは豪華な？食事を！と、パンとお茶の夕食。今、しなければならぬこともないし、有料のテレビをみることもない。こんな静かな空間があることに安らぎを覚えながら眠りにつく。

11月8日 (木)

今日の行動をチェック。アレー 関空まで送った宅急便の送り状がない！何度見てもない！さては家のどこかに？と・・・ 何度目かの電話に出た夫に探して貰うが見つからない。ホテルの豪華な朝食もそこそこに荷物の受け取り場所へ行く。何のことはないサインひとつで簡単に受け取ることができた。私のようなあわて者がいっぱいいるんだと苦笑する。実は、受け取った直後、財布の中に大事にしまつてあったのを発見。

7時55分、5人の関空組が関西国際空港に集合。9時55分、ほぼ満席のジャンボ機フィリピン航空で先ずマニラ/ニイノ・アキノ国際空港まで。この空港ターミナル2 (T2) は日本の国際協力銀行を通じての支援 (ODA) で建てられたと聞くと親近感を覚える。1時間半の乗りつぎの間に円をペソに両替する。時差はマイナス1時間。再び満席のジャンボ機フィリピン航空国内線に乗る。機内から見える島々、フィリピンには7,107もの島があり、人が住むのは1,000ほど。竜巻状の雲が沸き立っている。田んぼのような区切りがいくつも広がっている。塩田らしい。午後4時30分、まだ明るいうちに目的地のセブ国際空港へ到着。現地係員で日本語の達者なマロンさんが出迎えてくれる。少し暑いが湿気はさほど感じない。

一方、成田組の3人はセブ島への直行便で到着。シャングリラ・マクタン・アイランド・リゾート・スパホテルで合流。道後での同級会以来一年ぶり。

このホテルは安倍前総理も参加したASEAN SUMMITの主会場でもあったセブエリア随一の一流リゾートホテル。広大な敷地の入口には麻栗犬と金属探知機の検問がある。セブ在住のKさんがホテルで迎えて下さり感動の対面。全員安堵の表情。



そもそもこの計画は、2年前に K さんがセブ島で鉄骨機械製作、船体の製作会社（フィリピン国内の日系企業及び日本の新日鉄川崎重工業等が輸出先）の社長に就任したのがきっかけ。前回は前回も同級会に参加出来なかった彼は「次回はセブ島で同級会を」と提案してくれた。それに乗ったメール仲間が何度となくやりとりをし、また、K さんからは「セブ島はフィリピンの中で一番安全、私が一緒ですので安心して来て下さい。メディアが騒がしいが一般の人は何の兆しも感じていません」との言葉に勇気百倍、実現にこぎつけた。

思いつきの笑顔の9人(男6名・女3名)が揃ったところでホテル内の中華料理店で再会を祝して乾杯。若いウエイトレスと英語の軽妙なやりとりで K さんが選んでくれた料理の味は最高。また夫々の幼い時の思い出話や苦労話？が更にいい味付けをする。少し料理が残った。テイクアウトをして K さんの運転手（若くて実直そう）に持って帰ってもらうという。ここではこれが常識とのこと。食後ホテルの庭園内を散歩。急に暗くなり雨がぽつぽつ。急いで引き返す。スクールを想像したがすぐにやんだ。

11月9日（金）

6時前目覚める。ホテルの8階から見える海面は朝の光でゆれ動き、木々は太陽のやわらかい光で色づきスズメも朝を告げている。6時出勤の従業員と思われる若い男女が列をなしてホテルに吸い込まれていく光景など眺めながら、今日はいい天気になりそう～～～と。

ホテル内で朝食バイキング。整然と並べられたカラフルな料理でいっぱい。代金は1,245ペソ。マニラ空港で両替した時の為替レートは1ペソ約2.72円。円に換算すると、約3,400円の豪華な朝食だった。

今日はホテルのビーチリゾートで過ごそうと、水着で出かける。お世話役の Y さんから出発前に「ダイビング用の水中ビデオカメラを用意して行くので、シュノーケルまたは体験ダイブの機会があれば記念に水中撮影をしたいと思います。取り敢えず水着だけは用意して」とのメールに、もう水着を着る機会もないし折角のクリスタルブルーの海につかってみたいと水着姿の醜態を披露？ 水際まで寄ってくる10cmほどの魚。熱帯魚もいる。昨夜、K さんが「魚に」と持たせてくれたパンをちぎってやると、表面が盛り上がるほど来るわ来るわの魚の群れ、体をつつかれくすぐったい。泳ぎの上手な人は少し沖へ出たのシュノーケル体験を Y さんが水中ビデオ

カメラで撮影。平泳ぎしか出来ない私も興味だけはありシュノーケルを口にくわえてみるが要領を得ずすぐ息苦しくなり様にならない。その日のうちの撮影会で見た我が姿の現実に「カット」を強くお願いした次第。

紺碧の海、強い陽射し、遠浅で珊瑚礁の白い砂浜、ウインドサーフィン、羽を大きく広げたようなバンカーボート等を見ながらボーっと過ごす至福のひと時。アイスクリームの美味しいこと。それもそのはず？一個 1,000 円。(日本では同じ物が 200 円くらいかな?) 男性の誰かが言い出した。「ホテル内は如何にも高いから明日からの朝食は町で買って来よう」と。それにしても今お昼時、昼食を調達しようとホテルのレストランに掛け合うがらちがあかない。仕方がないと、魚にやった残りのパンと H さん持参のピーナツで腹ごしらえ。朝と昼、なんとと言う格差。わずかの食べ物を分け合った幼い頃を思い出しながら「K さんに呆れられるだろうね」などと大笑いしながら童心に帰りまたまた話が弾む。

夕食は K さんの招待でセブ・シティのレストランで海鮮料理。途中明日からの朝食を買い込んだのは言うまでもない。ホテルのあるマクタン島からセブ島市内へは 2 本の橋で繋がっている。道中、ちょうど帰宅時間のラッシュ時、車、車、車が車線など関係なく右往左往と走っている。定員 15 名(向かい合わせに座り)ほどの車には行き先を示す数字があり、車体全体に派手な塗装がびっしり、何処からでも乗れる何処でも降りられる便利な交通機関。走行中の車の乗り降りは常識のようだ。よく事故を起こさないものだと感心する。これはジプニーといって米軍の乗っていたジープを乗合バスに改造したものとか。

さて、夕食はと言うと、実のぎっしり詰った蟹、芭蕉の葉っぱの皿、パイナップルを器にした焼き飯、スパイスをきかした珍しい料理、どれも口に合う。女性達の飲み物は専らマンゴージュース、すっかりマンゴーフアンになった。目の見えない人たちの生演奏もあり、K さんがチップを弾むと日本の歌を演奏してくれる。大いに満足した夕食を済ませ、2 台の車でホテルへの帰路、後続の徐行していた車に幼児を抱いた若い女性が開いていた窓ガラス越しに物乞いをする。お金を与えるとまた、ほかの者も寄ってくる。そんなこともあったとか。

11月10日 (土)

今日はボポール島観光。7時15分、ホテルを出発。K さんも同行してく

れる。満席の2時間の船旅。日本語の発音のきれいな女性のガイドさんによる約5時間の観光。道路の両脇の食料品等を売る商店街の整った街並には、トライシクル（オートバイにサイドカーを付けた3輪の乗物で定員は2人のはずだが、4～5人の乗車も見た）の群れ？ガタンガタと忙しそうに人を運んでいる。

市街地を通り過ぎ海辺にある血盟記念碑へ。1565年スペイン初代総督がスペインとフィリピンの友好条約を結ぶためにこの地へ上陸した時、島の酋長と総督は互いの腕をナイフで傷つけてワインに血を注ぎ、それを飲み両国の友好を誓い合ったという。

次はハクラヨン教会。1595年に建てられたフィリピン最古級の教会。内部は広く薄暗く独特な静寂に包まれ、2階には博物館がありスペイン統治時代の貴重品が展示されていた。

保護森林地区を過ぎると田園風景が広がる。2期作のため、収穫間際の稲田と今から植える水田、日本では見慣れない光景。お米が美味しいことで有名らしい。ロボック川に到着。ヤシの木で縁取られた遊覧船に乗りバイキングの昼食を済ませた頃に船は動き出し川下りを楽しむ。川幅が広く水量も多い。実をつけたバナナやヤシの木など熱帯林を眺め、生バンドの演奏を聞きながらゆったりとした時間が過ぎて行く。途中、陸に上がる。大人から子どもまでの男女10人程の現地人が太鼓や踊りや離れた場所から松明に火をつけるパフォーマンスを披露する。

いよいよボホール島最大の見所、チョコレート・ヒル。目の前に広がる無数のお碗を伏せたような小高い丘。ガイドブックによると、「高さ30～40メートルの円錐形の小丘が約1,000個、地平線の果てまで続くという独特の景観をみせる。4～6月の乾期にはその色が緑からブラウンに変色することからこの名が付けられた」という。この景色を堪能したかったが生憎雨が降り出した。が、この雨もバスに乗る頃にはもう止んでいた。

世界で一番小さなメガネザル(体長20CM、体重120gほど)ターシャにも会えた。檻の中に入って行くとキョトントした真ん丸い大きな目のターシャ3匹が枝にしがみついている。コウロギを串刺しにした餌をやると自分で持って食べる。一段下の檻では2匹のターシャを抱かせて貰った。手の中でごよごよしてこの上もなくかわいい。船での帰途、この余韻を楽しみながらいつの間にか眠っていた。夕食は日本レストラン「海舟」にて。

11月11日 (日)

男性4名は早朝からゴルフに出かけた。他5名はマロンさんの案内でセブ市内観光。セブ港の直ぐそばにあるサンペトロ要塞跡。イスラムの海賊などの防御のために作られ、その後アメリカ統治時代には兵舎として、第2次世界大戦中は日本軍による捕虜収容所として使われたという。

サント・ニーニョ教会。サント・ニーニョとは「幼きイエス」のこと。マゼランがセブの女王に贈ったと言われるその像が収められていて、当地の人たちの守護神だとか。ちょうど日曜日の礼拝の最中。熱心な信者で溢れていた。一方教会の広場には子ども達が観光客と思しき人の袖を引っ張り、お腹を押さえ物乞いをする。また、混雑している道路。徐行している車の隙間を縫って子ども達が新聞を売り歩く。

セブ・シティの台所と言われるコロン通りのカルボン市場を車中より見学。狭い道幅の両側にびっしりと並んでいる食糧品を始めとする日用品が道路にせり出し、やっと車が一台通れるほど。野菜や果物は日本で見かけるものも多い。今回の旅行の目的である現地の人たちの生活ぶりを写そうと車中からカメラをむける。

セブ・シティの中心街を抜け、小高い丘にビバリー・ヒルズと呼ばれる高級住宅街へ。「老子」が祀られている道教寺院と共に今まで見た街並とは全然違う雰囲気。ここに住んでいるのは殆どが中国系の人々で、経済活動が盛んなのは彼らに負うところが大きいと聞く。

レストランでバイキングの昼食を済ませホテルで一休みの後、たっでの希望を聞き入れてくれた K さんのお宅コンドミニアを訪問。セキュリティーのしっかりしている広大な敷地に立っているマンションの一室。「こんなに大勢のお客さんが来るのは初めて、スリッパが足りなくて先ほど買ってきた」と。単身赴任の男世帯と思いきや「マァー！かわいいお部屋！」メイドさん（知人の大学生の娘さんを預かっている）の趣味だとか。美味しいコーヒーとクッキーをいただきながら、一年前の同級会のビデオを見たり、都合が付かず参加出来なかった N さんのメッセージを読んだり、本人に電話したりの楽しい時間だった。

夕食までの時間、大型スーパーでおみやげの買物をする。入口ではハンドバックの中まで検査する。松山にはこのような大規模なスーパーはない。ひどい混みようで K 先生を先頭に生徒がぞろぞろという感じ。孫達へのおみやげを買う。一転おじいさんおばあさんの顔になる。

またまた K さんにご馳走になってしまった。イタリア料理。ここのオーナーとは親しいらしく挨拶にきてくれる。ピザやスパゲティーを始め珍しい料理が並ぶ。

ここで K さんとお別れした。忙しい中、ずっと付き合ってくれたことに感謝した。別れ際「本当に来てくれるとは思わなかった」と。彼の最高の歓迎の言葉を受け取った。

11月12日（月）

とうとう帰る日が来た。ホテルのショップで残りのペソを使ってしまう。Y さんはボホール島でダイビングをするため帰国は3日後。後7人はマニラまで一緒。そこから夫々の出発地に向かいその日の内に帰宅。私はと言うと、関空到着後、梅田発11時50分の夜行バスに乗り翌朝13日に無事帰宅した。

楽しい楽しい旅だった。同級生の気楽さってこんなに穏やかな気持ちになれるものだと改めて皆に感謝した。何の損得も格差も感じなかった幼い時の思い出話、その頃から半世紀経った今の現実、今からの夫婦のあり方なども話題になった。女性3人組の部屋では、每晚遅くまで取り止めのないおしゃべりが続いた。

また、K さんの仕事に対する信念、愛情を持って従業員に接する態度、セブの生活に溶け込み、楽しみながらの真摯な生き方にも感動した。一握りの上流階級を除く一般社会の人達の生活は大変貧しそう。でも滞在中に接した若者達は素直ないい笑顔だった。

帰国直後の K さんからのメールによると、12月22日は会社のクリスマスパーティ。従業員と家族800人の出席で賑わうそうだ。親兄弟、親戚、近所で助け合って明るく生きている姿を垣間見て、フィリピンという国が近くに感じられるようになった。セブ島には日本企業が100社以上進出しているし公用語はタガログ語と英語、NHKのBSが見られ、香港から日本経済新聞も夕方届くと聞くと尚更だ。

本当に行ってよかった。K さんに教えてもらった現地の「サラムッポ（ありがとう）」の言葉を5日間一緒に過ごした8人の仲間にも何度も贈ります。

(SI・K)



老人医療費

我が国の難題は老人の増え過ぎらしい。老人医療費に介護保険料金、どうしても若い方に迷惑を掛ける様になっている。

自分が元気な間は、お年寄一人一人が気を付ければいいのにと、福祉にお金を使い過ぎよとか勝手な事を言って来た私。それが七十歳を過ぎると、運動もし食べ物にも気を付けていたのに血圧が高くなり、薬一個ではどうにもならなくなった。血圧が百八十位になると、胸はドキドキ何をしてもしんどい。これは異常だと検査を受ける事にした。一週間入院し、心電図にエコー、シンチ検査と近代医学の先端の機具の中に入り、最後はカテーテル検査をする事になった。腕から入れられたカテーテルから液を入れ透視をすると、血液の流れが一目で分かり、私の血圧の高い原因は、腎動脈のつまりという診断になった。

放っておくと腎臓がやられ切り取ってしまわないとだめだと聞き、私も家族も驚いてしまい医師の説明を受けることになった。

血管を拡げるにはいろいろな方法があるが、足のつけ根から動脈にカテーテルでふうせんにステント（ストローの様な金）を被せつまっている所迄行ったらふうせんを拡げステントを置いて帰るというもの、説明では簡単そうなので「お願いします」と言って木曜日を待った。青い帽子に青い手術着、点滴を付け尿管を入れ、車椅子の人となった。病室の方や家族に「頑張って」と励まされ、手術室へ向かった。手術室は、看護師に医師六、七人の方が準備して待っていて下さった。手術着は袂で切り T 字帯も除け、俎板の鯉とはこの事ガチガチ歯が鳴る程緊張し、「寒い寒い」というと、「怖がる事はないですよ」と肩をポンポン押さえてくれる看護師さん。医師は三人でチームを組んでおられるので、手早く作業が進む。部分麻酔なので、痛い事もないし、今どんな工程なのかもよく分かる。兎に角早く終わって欲しい事ばかりを祈り目をつぶっていた。

四十分位で処置は終わり、今度はベットに乗せられ病室迄帰った。「おかえり」と拍手で迎えられ、終わったんだと一息ついた。それからが大変、動脈にいろいろ物を入れての手術なので体も足も動いてはだめ。麻酔が消えて来ると足は痛い、背中は痛い、水は飲みたい。

これ位ならと家族の者も帰ってもらったので、一夜の長いこと、痛い眠れない水が飲みたい。昼も食べてないのでお腹は空く。泣きたい位だったが、朝の

来るのを待った。

動かなかったはずなのに、出血が右足にどんどん拡がり、二週間過ぎた今も黒ずんで腫れて、歩きにくい。

検査に五日、処置に七日の入院だったが、家族の者にも 病室の方々にも迷惑を掛け、看護師さんや医師の方々にも大変お世話になった。検査料と処置費入院費薬代合計で、老人医療なので一割負担で十万近くで済んだ。町や国の保険料を相当使わせてもらい、やっと元気になりかけたところ、一年一年老いていく身、これからどうなるのか心配である。 (Sa・K)



雑感

あっという間に今年も終わろうとしています。今年を表す漢字は“偽”。悲しくなってしまう。

暖かいのか、寒いのか、迷っている間に師走を迎え、朝の冷え込みが厳しくなっています。石鎚山は雪化粧を始めていますが、我が家の北に連なる山々はまだまだ紅葉が美しく、秋色に染まっています。この山並は正岡子規が“茸狩りや浅き山々女連れ”と詠み、かつては松茸が沢山採れたといひます。伊予鉄、平井駅に村上壺天子による句碑があります。当時、平井駅あたりは松茸市場の競りで賑わっていたのだそうです。今では想像もできない良き時代の情景に想いを馳せながら、電車の待ち時間を過ごしています。

幸運にも我が家はこの秋、初めて小田深山溪谷の紅葉を堪能しました。ほうじが峠近くを通る道を選んでしまった為、未舗装でガードレールも未整備の悪路が長く続き夫に話しかけるのも躊躇われる有様でしたが、ありとあらゆる黄、朱、褐色に包み込まれ車ごと紅葉に染まってしまいそんな幻想的な世界を体感することが出来ました。でも、あの素晴らしい自然を排気ガスで汚してしまったことが申し訳なく、次は是非、徒歩でと考えています。

京都議定書が議決されて10年になる今年、“不都合な真実”のアル.ゴア氏と気候変動に関する政府間パネル(IPCC)にノーベル平和賞が贈られ、インドネシア、バリ島では国連気候変動枠組み条約締約国会議(COP13)が二週間に亘って開催されました。京都議定書の第一約束期間が終了する2012年の後を見据え、2013年以降の温暖化対策の枠組み交渉の進め方をまとめた行程表「バリ.ロー

ドマップ」の妥結には、世界一の CO2 排出国でありながら京都議定書から離脱している米国と、今は削減義務のない途上国の思惑が交錯し難航を極めました。その結果、文言は妥結されたものの、数値は記載されませんでした。特に日本は、米国に参加してもらう事が何より大切として、“仲介役”になろうとした行動や、日本自身の削減に言及しなかった事などで批判される場面が多かったことはとても残念なことでした。

地球温暖化に関しては様々な説が有り、あまり心配する必要は無いとする学者が居ることは事実です。しかし、このところ世界中で年々被害が大きくなる台風、ハリケーン、サイクロンの脅威や、水没の恐れのある島々、氷河融解の進行、等々を耳にする時、温暖化の影響を完全否定出来ないのであれば、実行すべきことの優先順位は自ずと見えてくる筈です。IPCC 議長で経済学者でもある R.パチャウリ氏は、将来の気温上昇を人類に危険のないレベルに抑えるためには、温室効果ガスの排出量を現在の半分以下に減らさなければならないとし、CO2 排出に経済的な痛みを伴う仕組みと排出の少ない技術に経済的な誘引策を講じるなど普及を促す政策的枠組みを作ることに加えて、排出量取引の早急な確立を訴えています。日本政府はハンガリー政府から排出枠を買うことを決めた様ですが、まだまだ国内で削減の余地は残っている様で複雑な想いです。一方、大規模事業所への CO2 排出削減義務化と排出量取引制度の導入を打ち出した東京都には経済界が「日本経済を破綻させる」と激しく反発していると言います。いつまでも、自分達だけは地球温暖化による被害者になることはないと考えているのでしょうか？傲慢かつ愚かしいことです。国連環境計画 (UNEP) が 10 月に発表した地球環境と開発に関する包括的な評価報告書“第四次地球環境概況(GEO4)”では、毎年 200 万人以上の人が大気汚染が原因で死期を早め、南極上空のオゾン層の“穴”はこれまでで最大になり、2025 年までには 18 億人が水不足になると予測し、生物多様性も急速に低下し 16000 種以上が絶滅の危機にあると報告し「人類の生存そのものが危機に瀕している」と強い警告を発しています。UNEP 事務局長、スタイナー氏は「地球の環境変化は規模もペースも我々の適応能力を上回りつつある。現状を変える技術的、社会的な力はある。足りないのは政治的、経済的リーダーシップ」と発言しています。

クリーンエネルギーとして注目されているバイオ燃料ですが、食糧、燃料間競合、森林破壊、水資源へのストレスなど問題点は多いようです。特に、森林

破壊は CO2 を吸収してくれる筈の森の泥炭が剥き出しとなりメタンガスが放出され火災がおこり CO2 を大量に発生するなど問題は深刻です。新たな燃料を探すことに腐心するより、燃料を少しでも減らす生活を工夫することの方が大切だと考えます。

先進国が途上国の産物を安い人件費で吸い上げるようなやり方は、環境破壊だけでなく、紛争の火種にもなっています。武力や経済力で封じ込めた不満が徐々にもっと大きな憎しみと怒りのエネルギーになって爆発している様に思えてなりません。

自動車道整備より歩きたくなる歩道の整備を！レジ袋を減らすことは勿論賛成ですが、その前にトレイやペットボトルなどのプラスチック容器の削減を！ライトアップやイルミネーションで街を明るく飾るより、暖かくて明るい家族団欒を！“お取り寄せ”より地産地消の旬の食材を！

人間は生態系の頂点に君臨しているとの勘違いはそろそろ改めなければ、今まで私達の我儘にじっと耐えて支えてくれていた動植物が絶滅してしまった時、私達も存在することは出来ないことに気付かなければ！と思うのです。

今日(12/20)薬害 C 型肝炎原告団は国の和解修正案を拒否し事実上和解協議は決裂しました。“1977 年に米国はフィブリノゲンの承認を取り消し、旧ミドリ十字はそれを認識していたものの旧厚生省が認識していたかどうかは判然としない。1985 年には旧厚生省が認識しているとの記載が有る。また 1988.6 に旧厚生省は製薬会社に緊急安全情報を出すよう指示。従って、1985～1988.6 は国に責任が有るが、以後については医療行為上の責任は生じても国の責任は無い。”とする東京地裁判決に基づいた和解案を国が固持し全員一律救済への政治決断に至らなかったためです。1977 年の段階で認識していて当然とは思いますが、余程無能だったのでしょうか？1988.6 以降については危険を認識している薬を結果的に野放しにした責任は問われてしかるべきです。訴えなければ救われない、訴えても救われない、この国はどうなっているのでしょうか？本来なら国と製薬会社が被害者を探し、出向き、謝罪し、治療させて下さいと頼むべきことだと思うのです。原告団の涙を見ると、この国に生まれて良かったとは決して思えないのが悔しいのです。日本国民であることに誇りを持てる様な政治を強く望みます。

“蝶々はなぜ菜の葉にとまるのか”という表題と、ジャコウアゲハの一文があることに心魅かれて、本を買いました。身近な植物の特性が書かれています。

植物たちの、健気で慎ましく、かつ強かな進化と適応術を読み進んでいくと、これこそが生きる知恵だと感心しました。私達人間は知識と情報を享受したかわりに知恵を失いつつあるようです。

私達夫婦は来年還暦を迎えます。今までの慌ただしい生活を卒業して、丁寧に時を紡いでいきたいものです。最近、若かった頃読んだ海外の書籍の新訳本が次々に出版されています。読み比べてみたいと思います。

ベランダに干した柿がそろそろ出来上がってきました。冷凍して来年の夏食べるのを楽しみにしています。 (K.O.)



お知らせ

- ・ 2008年1月7日(月)午前10時から林宅で総会を行います。
会計報告および2008年度の活動計画を行います。
総会終了後、引き続き新年会(一品持ち寄り)を行います。
1年に一度の総会です。万障お繰り合わせの上ご参加下さい。
- ・ 読者の声・投稿などお待ちしております。

くらしの学習会では、随時会員を募集しています。

活動会員 2000円/年 購読会員 1000円/年

振込先口座番号(郵便局) くらしの学習会 01610-5-21026

問い合わせ先 TEL/FAX 089-964-6956 (林)

E-mail: kt-hayashi@nifty.com

編集後記

私事ですが、今年2月に夫の母が亡くなりましたので、喪中葉書を書きました。新年は年賀状の来ない寂しいお正月となりそうです。メールの発達した昨今ですが、故郷から離れた私にとって年賀状は知人との唯一の近況報告の機会になっています。2007年も残りわずか、皆様良いお年をお迎え下さい。

(T・H)

